

令和2年度自己点検・自己評価調査結果

1. 自己点検・自己評価の目的

JA 北海道厚生連旭川厚生看護専門学校の教育理念に沿った教育水準の向上を図り、外部からの意見を聴取し、今後の学校運営に寄与することを目的とする。

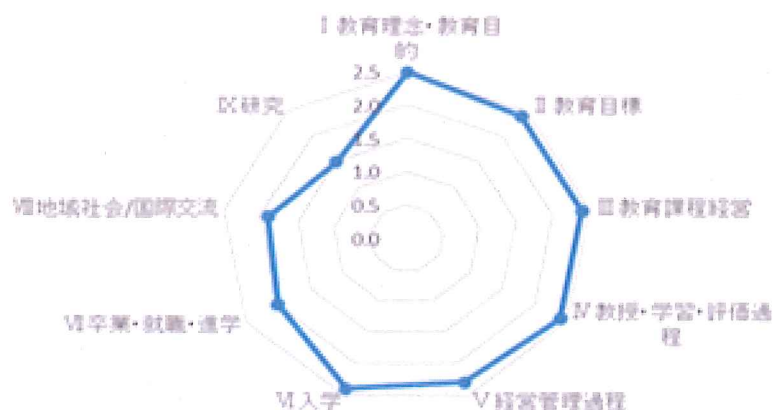
2. 本校の自己点検・自己評価方法

本校の自己点検自己評価は、東京都立看護学校が公表している自己評価表を本校の組織に応じ修正を加えながら活用してきたが、本校の特性や現状にそぐわない視点や表現があることから、評価指針があり、使用している学校も多い厚生労働省の評価表を今年度から活用し評価した。

外部評価（学校関係者評価）は講師会の開催が紙面開催となったため、紙面でご意見をいただいた。新たな委員会（学校関係者評価委員会）はリモート開催とし、ご意見をいただいた。その結果を基に、学校運営改善への取り組みを行う。

3. 評価結果

評価内容	R2年度平均点
I 教育理念・教育目的	2.5
II 教育目標	2.4
III 教育課程経営	2.4
IV 教授・学習・評価過程	2.4
V 経営管理過程	2.3
VI 入学	2.4
VII 卒業・就職・進学	2.0
VIII 地域社会/国際交流	1.9
IX 研究	1.5
総合平均点	2.2



昨年までは自己評価表の内容も 8 領域で 42 項目、今年度からは 9 領域 67 項目となった。
平均点は 2.2 点と平均点が 2 点未満の項目は「Ⅷ 地域社会/国際交流」と「Ⅸ 研究」の 2 項目であつた。また、平均点が 2 点台後半の項目は、「Ⅰ 教育理念・教育目的」のみであつた。

評価項目ごとに見ると 2 点未満の項目は 13 項目あつた。その項目としては、Ⅲ 教育課程経営の「授業準備のための時間がとれる体制」が 1.4、「教員相互研鑽のシステム」が 1.9、Ⅶ 卒業・就職・進学の「卒業生の就職先での評価を把握し、問題を明確にしている」が 1.7、「卒業生の就職先との情報交換や調査の実施などが出来る体制を整えている」が 1.9、「卒業生の活動状況を把握し、統計的に整理している」が 1.7、「卒業生の活動状況の分析結果を、教育理念・教育目的、教育目標、授業展開に活用している」が 1.7 であつた。Ⅷ 地域社会/国際交流の「看護教育活動を通して地域社会への貢献を組織的に行っている」が 1.9、「養成所の教育活動について、地域社会のニーズを把握する手段を持っている」が 1.9、「地域内における諸資源を養成所の学習・教育活動に取り入れている」が 1.9、「国際的視野を広げるための自己学習に適した環境が整っている」が 1.8、Ⅸ 研究の「教員の研究活動を保障している」が 1.4、「教員の研究活動を助言・検討する体制を整えている」が 1.7、「研究活に価値をおき、研究活動を教育相互で支援し合う文化的素地が養成所にある」が 1.6 であつた。昨年度迄と評価内容は違うが、評価項目の研究に関する「研究調査活動の体制」の項目をみると 5 点中 1.4 点と低い状況であつたが、全体的には自己評価表の内容・項目が変更したことから結果の詳細な判断は次年度以降とする。

評価内容	評価項目	R2年度
Ⅲ 教育課程経営	授業準備の体制	1.4
	相互研鑽システム	1.9
Ⅶ 卒業・就職・進学	卒業生の問題を明確	1.7
	卒業生について就職先との情報交換、調査等の体制	1.9
	卒業生の活動状況の把握、統計的处理	1.7
	卒業生の分析結果を教育理念・目的・目標、授業展開に活用	1.6
Ⅷ 地域社会/国際交流	教育活動を通して地域社会への貢献	1.9
	地域社会のニーズを把握する手段	1.9
	地域内の諸資源を学習・教育活動に取り入れている	1.9
	国際的視野を広げるための自己学習に適した環境	1.8
Ⅸ 研究	教員の研究活動を保障	1.4
	教員の研究活動を助言・検討する体制	1.7
	研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地	1.6

4. 今後について

- (1) 教育を行っていく上で大切な、授業準備体制・相互研鑽システム、研究に関する項目が低い状況にある。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で授業方法・時期・内容の修正・変更が幾度となくあったことの影響は大きいと考えるが、質の高い学校経営、教育活動を行えるように工夫・改善を行っていく。
- (2) 卒業の状況把握、問題把握、就職先との情報交換、活動状況の把握など、卒業生の状況を教育にフィードバックする評価が低くなっていることから、卒業生評価も視野に教育課程に生かすようなシステムを作っていく。
- (3) 今年度から自己評価表を変更したが、評価項目の視点が分かりづらいというアンケート結果もあったため、評価項目の共通認識を図ると共に項目評価実施する。

5. 令和2年度自己評価に関する学校関係者評価

紙面やリモート開催となり、多くの意見はいただけなかったが、自己点検・自己評価を実施することは教育体制と教育内容の充実を図るための方策であり、継続していくことが必要であることを再認識している。

18歳人口が減少する中での学生確保と教育の充実は学校運営において大きな課題であり、評価が低い項目については、教員が自ら厳しく評価しているのであり、概ね良好とのご意見もいただいたが、学生に対する関心や関わり方については、他校と比較してのご意見もいただき、自律性を育むまでにはもう少し支援が必要ではないかと考え、今後取り組んでいく。